素材研究（海外）

アブルッツォ州（イタリア）

雄大な山々を抱える大自然の宝庫
面積の3分の2を占める山岳地帯は国立自然公園

城壁に囲まれたスルモナの旧市街に残るローマ帝国時代の水道橋

山懐に抱かれたスカンノはイタリア人が最も好む町と言われています

ヨーロッパ各国からも避暑を楽しむバカンス客が訪れるスカンノ湖

イタリアを代表するお菓子・コンフェッティはスルモナが発祥の地です

スルモナにはアペニン山脈で最も高い山塊が覆いかぶさるように迫ります

昨年11月に開催されたＪＡＴＡヨーロッパ観光促進協議会（チームヨーロッパ）の「メディアデイ」では、「フリーペーパー・会報誌部門」で『イタリア好き～特集』が最優秀作品に選ばれました。その特集でも取り上げられたアブルッツォ州は、歴史・文化とともに、国立公園となっている雄大な山々を抱える自然の宝庫としても知られています。

点在する街も自然保護区域の中に

長靴のような形をしたイタリアのイオニア海側の西半分に比べると、アドリア海側の東半分は、日本での知名度が相対的に低いかもしれません。そのアドリア海側のほぼ中央に位置するアブルッツォ州は、ローマのあるラツィオ州に隣接しており、州都のラクイラへは車なら1時間半という距離です。

２００９年４月にはマグニチュード６の地震がアブルッツォ州で発生し、同年７月の主要国首脳会議は震災復興のため開催地を変更して「ラクイラ・サミット」となりました。この時の報道で、ラクイラの地名を記憶した人も少なくないはずです。

日本では、イタリア北部のアルプス山脈が有名ですが、中央部にはアペニン山脈も走っており、アブルッツォ州は、アペニン山脈で最も高い山塊であるグランサッソ山脈を中心に、面積の３分の２を山岳地帯が占めています。アブルッツォ国立自然公園には多くの自然保護区域が存在し、山の中に点在する街までが自然保護区域の中にあります。夏はトレッキングや乗馬、湖畔での避暑、冬もスキーが楽しめるため、イタリア国内だけでなく、欧州各国からも多くの旅行者が訪れています。

世界的な写真家も魅了された町、スカンノ

有数のリゾートであるアブルッツォ州にあって、イタリア人が最も好む町と言われているのがスカンノです。ローマから車で１時間ほどの距離ですが、険しい山に囲まれて隔離されたゾーンのため、昔ながらの伝統や風習が残っています。旧市街を歩くと、全身黒の伝統的な衣装をまとった老婦人たちが普通に生活し、狭いスロープや長く続く階段、オレンジ色の街灯も独特の雰囲気を演出。そのロマンチックな景観には、世界的な写真家であるマリオ・ジャコメッリも魅了され、スカンノを撮った作品も少なくありません。

スカンノから車で北へ１時間ほどのスルモナは、イタリアで最も有名なお菓子・コンフェッティの発祥地です。アーモンドに砂糖を絡めたシンプルなお菓子は、15世紀に十字軍が東洋からアーモンドを持ち帰って以来の伝統で、17～18世紀の創業という老舗が営業を続けています。